

毎月二十八日に発行していますこの寺報が、お蔭さまで二十五周年を迎え、三百号となりました。一枚だけのささやかな紙面ですが先代住職からこの体裁で、殆ど変わりなく歩んで参りました。

院内一同ご愛読に心より感謝御礼申し上げます。

今後共、充実した内容を目指し精進して参りますので、ご信援の程、お願い申し上げます。

新年をいかがお迎えでしょうか。

今年もよろしくお願い申し上げます。

新年をいかがお迎えでしょうか。

今年は、日本にとって元号が変わるという、歴史的な年であります。昨年十二月、陛下は平成最後の誕生日に「天皇としての旅を終えようとしている」として「戦争のない平成に心から安堵」と語られました。そして当日、皇居の一般参賀の人数が平成最高の八万人超となつたことは、国民の気持ちの表れでありましょう。

戦後の混乱の時代と、こんにちの日本の繁栄とともに過ぎられた感慨は、いかばかりかと拝察致します。

天台宗も平安時代より鎮護国家を祈念し、さらに「一隅を照らす」人材となるよう、仏さまの教えと共に私たちが平穏な生活の毎日であるよう、念願して参りました。

天台宗は現在、「祖師先徳鑽仰大法会」の慶讃期間中であります。ですが、二年後には伝教大師最澄一二〇〇年大遠忌を控え、さまざまな慶讃事業を開催しております。その大きな柱となります比叡山根本中堂の国宝大改修は、現在、屋根の覆い工事が終わり、いよいよ本格的な工事となります。

建物は勿論、私たちは伝教大師の御教えに深く想いを馳せて、心して大切に毎日を過ごしていかねばと思います。

あたらしい元号の時代の幕開けは、新しい情報戦争の時代の到来といえそうです。その時代を生きるわたしたちは、AIが普及し、つねに管理されているような息苦しさの中、閉塞感からさまざまなストレスを抱えるようになりました。そこには従来とは異なる質の病が増え、"病"と称しても、その内実はさらに複雑さを増しているようです。見た目では判らない心の病は、多かれ少なかれ多くの方が患っていると言つても過言ではないでしょう。

一助となるのは、昔からの文化と伝統を、仏さまの教えとして頼りとすることでしょう。そこには私たちのルーツがあり、穏やかな心持ちでそこに立ち返ったとき、私たちは内在している自助力が、ふたたび自らを癒していくのです。

ご平安を祈り上げます。

合掌

皆が元気に過ごせますよう
心からお祈り致します

(遊)



ムクロジ（無患子）

あけましておめでとうございます

ムクロジは 無患子 と書きます

病を知らない

魔除けの靈力を持つ靈木とされ
その実はお正月の羽根つきの羽根や
お数珠に使われるそうです

今年も一年

當山の「水屋」が〈川崎市地域文化財〉に認定されました（平成30年11月1日付）



山報を読み軽やかに 散歩する

人類の最も小さな共同体としての家族が中心となつて一つの作品を作り上げ、家族含め院内の皆で創造することのすばらしさを伝える神木山報であると思います。

等覚院も新たな家族の誕生により更に投稿のコーナーが増え、院内の皆様のお力により、更に充実した紙面になることをお祈り申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

等覚院 総代 井田 光政

300号 每月28日発行

E-mail:info@tougakuin.jp

shibokusanpo

一隅を照らそう
1月号

三百号おめでとう
(四半世紀の歴史を祝う)

神木山報は、歳時記とも、かわら版とも、また新聞としてその役割を果たしている素晴らしい読み物です。

また、この編集者が素敵です。ご住職がまずメインを綴り奥様の身近な植物や自然に対する詩と、加えてお嬢様の挿絵のコーナーや副住職のサステイナブル・ピースを土台としたメッセージとイラストにより、新聞社で言えば、編集長、エッセイスト・コラム作家、ポエム作家、イラストレーターと全てを家族で携わり作成しているお寺の新聞社のように思えます。



「マインドフルネス」の源流を辿つてへ上へ

副住職 中島 光信

フランスの修行道場を訪ねる

パリから南西へ高速鉄道で約2時間、ボルドー近郊の田園風景の中に「プラム・ヴィレッジ」があります。世界的な禅僧であり平和活動家であるティック・ナット・ハン師の本拠地です。ティック・ナット・ハン師は一九二六年、ベトナムのフエ生まれ。ベトナム戦争に荷担しなかつたその姿勢から祖国を追われ、フランスに、出家者達が共同生活を営む道場「プラム・ヴィレッジ」を構えます。キング牧師からはノーベル平和賞候補に推薦され、グーグル等の世界的企業、各国の議会、国連などで坐禅指導。「エンゲイジド・ブッディズム（行動する仏教）」や「マインドフルネス（今ここで体験に意識を向ける）」を世に広めた功績は大きく、今の時代もっとも影響力のある仏教者は、ダイライ・ラマ十四世とハン師といえます。二〇一五年に脳出血で倒れられても回復をみせ、現在もりハビリに励んでいらっしゃいます。

ご本人との対面は叶わなくとも、ハン師の存命中にその法門を叩きたい、という切迫した想いから、昨年の七月、フランスを訪ねました。

その光景はまるで極楽だった

プラム・ヴィレッジは年に数回、在家者を受け入れていて、その期間中は出家者と行動を共にすることができます。昨夏はひとりで延べ四百人以上、乳児から老齢まで世界七大陸すべての地域から参加者が。

到着すると、そこには極楽かと見まがう光景が広がっていました。青空の下には満開のバス池が広がり、梵鐘の向こうで少年達がサッカーに興じている。おおきな菩提樹にブランコが下がっていて、順番待ちする子供たちの嬌声が響いていた。大人も、昼寝したりギターを爪弾いたり、思いおもいに過ごしているのです。一人一人のペースが尊重されているのでとても自由度が高く、その在りようが、この場所全体を安心安全なものにしていました。ここでどんな生活が始まるのだろう？こうして私のリトリート（瞑想合宿）は幕を開けたのです。（続く）

等覚院「緑を守る会」だより

事務局 坂口 英典

「緑を守る会」は、記録ノートによると平成十四年春より元会長の若林信克さんの縁で始まり、等覚院東の森の手入れが二人で始めた最初の作業でした。

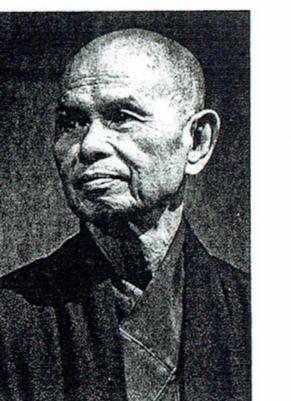
そんな折、【天台宗開宗千二百年慶讃事業】として「緑を守る会」では「つつじ協賛金募集」を発案し、多くの皆さんの寄付でつつじを移植して早十余年。移植作業に精出す会員さんや「西澤つつじ園」代表の故・西澤義光さんのご尽力で、今では等覚院のつつじの顔になりつつある女坂の「西澤つつじ」も元気です。

その後も少人数ながら無理せず月2回の作業は続行中…。昨年の台風で折れた頭上の危険木の伐採も難航し、時間もかかりましたが、会員さんのご協同と底力に感謝です。暮れには永井雄人（NPO法人白神山地を守る会代表）さんのご縁でブナの苗木を移植。今後は古木つつじの保守管理がテーマで、時間をかけながら養生作業を予定しています。

古木のつつじや桜が枯れ始めている転換期にあって、次世代のつづじや木々が等覚院の緑の再生に大きな力となりますように。そして、この森や境内が皆さんのがんの憩いの場所となりますように、努めたいと思っています。

ク・
ティック
・ナット
・ハン師

↓白神山地のブナ植樹
(12/8 成道会の日)



あとがき

○明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

○昨年を表す漢字は「災」でした。自然災害は日本の各地に及び、多くの地域で甚大な被害がありました。天災の他に「パワハラ」「セクハラ」といった人災の騒動も多数あり、人の内面にかかるとしても深刻です。

○廊下に募金箱二つ。天台宗地球救援事務局へ一二、五九一円。アーユス（仏教NGO）に九、三〇六円を、それぞれ歳末に寄託しました。茲にご報告と共に御礼申し上げます。

○亥の年生れは正直剛氣であるが短気のため一時の感情に馳り成功を妨げることがある。世話好きで侠気肌に過ぎ却つて恨まれることが多い。人を容れる雅量に乏しいのが欠点である。

○天台宗の発行する「天台ジャーナル」に、副住職によるティック・ナット・ハン師に寄せた想いの連載が。皆さまも関心を持つ頂ければ……。

○暮れの八日、薬師如来祈祷会のあとに開催した「♪歌いましょアコーディオン演奏会」は、好評で、新聞でも記事に。次回は春に開催予定、お楽しみに。

*毎朝六時より公開で朝のお勤めをしております

ご都合のよろしい時にはご一緒にどうぞ

SUSTA 亥 NABLE PEACE 2019

節 分 会

行 事 案 内

◎元日 平成三十一己亥歳（午前五時・午後二時）

開運初護摩供嚴修

秘仏 薬師如来御開扉（元日～八日まで）

◎一月八日 午後二時

初薬師如来大護摩供

日本橋智泉院法要日（於・茅場町）

◎一月十八日 午後二時

初観音経読誦法要（於・観音堂）

◎一月二十九日 午後二時

初不動尊大護摩供

◎一月三日 午後二時

◎息災護摩札（志納金一体五千円）

○盗難除お札 ○火防お札

◇自動車交通安全お守り（志納金三千円）
(前以て番号をお知らせ下さい)

寒さ厳しき折、御自愛下さい。

合掌